

平成 28 年度 学校評価表

学校教育目標		夢と志を抱き、自ら考え行動し、たくましく生きる児童の育成													
a ミッション		○学力の向上や地域を元気にする児童の育成を通して、地域・保護者から信頼され、応援していただける学校をめざす。			a ビジョン		①ありがたいに包まれた学校 ②確かな学力を育む、児童が生き生きと安心して学び合える学校 ③潤いと規律の中で知・徳・体・芸のバランスのとれた児童を育成する学校 ④地域の学習環境や教育力を活用し、保護者や地域と共に歩み、信頼される学校						尾道市立瀬戸田小学校		
評価計画							自己評価					学校関係者評価			改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
						e 達成率	g 達成率				イ	ロ	ハ		
確かな学力の向上	「学びと育ちの連続性」を基盤に確かな学力の定着を図る教育活動の推進	瀬戸田小学習規律基礎学力の定着	○瀬戸田小学習モデル（学びのすすめ）の実践と毎月末評価・改善	○瀬戸田小学習モデル3項目（立腰・授業中の反応・宿題提出率）の月末学級評価の全校平均80%以上	80%	80%		100%	A	○重点項目の達成率は、「立腰」が63%、「授業中の反応」が89%、「家庭学習」が90%であった。3項目中2項目は80%を越え、3項目の平均が80%であった。 ○どの項目でも、4月当初の達成度を上回り、児童の意識の向上が見られた。 ●昨年度同様、「立腰」の達成率が低い。姿勢よく学習に臨む必要性を児童に理解させる。これからは、学校で共通した意識付けの方法を決め、継続して取り組む。	3			○達成率の低い「立腰」の必要性を児童全体に認識させると共に保護者等にも周知し取り組みに対する共通認識を持てれば良いと考える。また、家庭学習においては保護者との連携を密に取る必要性を感じる。 ○重点項目の「立腰」の達成率が残くないのは、生活全般に意識されて取り組まれていない結果だと思えます。家庭生活、学校生活がひとつになり、推し進めていくことが重要だと思います。 ○「学びのすすめ」を実践し、月末に評価し、課題を明確化し、次の実践に役立てていく良いと思う。また、教育活動の至る所に肯定的評価が生かされている。	○「立腰」の学習姿勢を2学期の重点課題として、まずは教師・児童が共通認識する。学校朝会で立腰の目的や効果を児童が必要と感じるように伝える。また、家庭学習・家庭生活での立腰の習慣化を図るため、懇談会・学級通信で啓発し、家庭と連携してその推進をする。
			○国語科・算数科における授業改善と毎月末評価・改善	○国語科（読解）・算数科（3観点）の学期末テストにおいて80点以上の児童の割合	80%	78%		98%	B	○国語科では77%、算数科では79%という結果であった。目標値に近づいている。 ○校内研修で、H28「基礎・基本」調査の分析を行い、指導のポイントを職員で共通認識した。 ●1学期は、国語科と算数科において、授業研究を通しての研修は設定できなかった。夏休みに、国語科・算数科の理論研修を行い、そこでの学びを生かした授業研究を行う。	3			○基礎学力の定着は保護者が最も望んでいるものである。小学校での学習のつまずきは今後の学習に多大な影響を与えるものとする。さらに達成率が向上するような取り組みを期待する。 ○教職員の資質向上を期します。 ○学力をつけるための基礎・基本に、教える側と児童の側から分析して改善を図ることが学力向上につながる。	○全教職員での資質向上を目指し、校内研修の充実を図る。 ○夏休みに国語科・算数科の理論研修と、学力テストの演習・分析を行った。教材分析を教員で行い、教材の特徴と教材に付けた学力を明確にした授業を目指す。また、全学年で国語科・算数科の授業研究を行い、授業力の向上を目指す。 ○「チャレンジタイム」の進め方を共通認識し、児童の実態に合わせた学習を仕組む。
		芸術教育の推進と創造	○図画工作科におけるポートフォリオ評価の実施	○児童が行う自己評価及び担任評価における肯定的評価の割合85%以上	85%	94%		111%	A	○ほぼ全ての学級で目標値85%を越えることができた。 ○ポートフォリオ評価により、児童の考えを把握し、教師が個々の児童に的確なコメントを送った。それにより、肯定的な自己評価をする児童が増えた。 ○広島大学准教授中村先生を招き、ポートフォリオの効果や図画工作科を通して目指す児童の姿について研修をし、共通認識を図った。 ●ポートフォリオを授業の中でどのように扱うかが、研究授業後の協議会で課題に挙がった。図画工作科の授業の中で効果的・効率的に活用できるポートフォリオの開発や改善を今後も続けていく。	3			○ポートフォリオ評価により児童自身が学習の流れをつかむことができ、また自己評価や他者を評価する力が身につくことで効果が発揮でき、学習意欲につながると思える。なお、ポートフォリオは評価のためのツールであり、それをどのように判断し活用していくかが重要になると考える。 ○芸術教育の推進と創造的教育活動をじっくりと取り組まれた結果が、ここにして表面化されていると思います。学年が上がるにつれて、力量の幅が広がっています。マンネリ化しないことを望みます。 ○ポートフォリオ評価を通して、児童が自己肯定できるようになれば、他教科にどんどん転移できると思う。	○児童が自己肯定感を育むことのできるポートフォリオの開発をすることにも、評価規準の設定の仕方を研修する。児童が自己内対話をし、自分の内面の成長が見えるポートフォリオを目指す。 ○児童が自己の感動を十分に表し、週に応じた表現ができるように、表現方法の指導のみでなく、感性を育むことのできる図画工作科授業を目指す。
豊かな心の育成	お互いを尊重し、自ら考えて進んで行動ができる子どもに育てる生徒指導体制の確立	生活規律の定着	○生活習慣3項目（時刻時間・挨拶返事・無言清掃）の重点週間取組と月末評価	○児童と教師が行う生活習慣3項目（時刻時間・挨拶返事・無言清掃）のアンケート全ての項目で80%以上	100%	66%		66%	C	○挨拶と時間・時刻を守る項目については、4月に比べ自己評価の数値が上がリ、目標値を達成することができたが、無言掃除については目標値を達成することができなかった。 ○児童会本部役員による集計結果の振り返りや、取組の提案が効果的だった。 ○教職員が範を示しながら、取組を徹底することで成果が出ている。 ●挨拶は、「いつでも、どこでも、誰とでも」という習慣化までには至っていない。教職員で、フレインドライティングなどの研修をしながら新しい取組をつくりだしていきたい。 ●学年や学級により達成度に差があり、どのような子供にしたいのかという共通理解の基で、各学年の取組を工夫しながら、成果のあった取組について広げていく工夫をしていく。	3			○挨拶を毎日きちんとできる児童は、他の人との関係が上手にできる基礎力が身につくと思える。第一印象が良く、相手の心にやさしくなるため、人との関わりがスムーズにできる力が自然に育つと考える。瀬戸田小学校児童は校内での挨拶はしっかりとできているが、学校を離れた地域に出た時の挨拶がもう少しと感じる。保護者、地域ぐるみでの声かけの必要性を感じる。 ○教職員があらゆる取り組みを組み入れながら、工夫を凝らして取り組まれていることに感謝します。しかし、分析に傾いていく傾向に注意を払っていただきたいと思ひます。子どもたちから報告をする。これによって、学級委員のリーダーとしての自覚を育てる。 ○挨拶はかなりできていると思う。時刻を守る姿勢は授業の基本として意識付けたい。無言掃除に関しては、大きな課題で、根気強く指導するしかないと思う。	○よりよい挨拶レベルについて、児童会本部でお手本を示し、全校児童が模範となる。第一印象が良く、相手の心にやさしくなるため、人との関わりがスムーズにできる力が自然に育つと考える。瀬戸田小学校児童は校内での挨拶はしっかりとできているが、学校を離れた地域に出た時の挨拶がもう少しと感じる。保護者、地域ぐるみでの声かけの必要性を感じる。 ○朝の交通指導当番のA・Bグループを、地域ではなく校門で行い、半数の教職員が校門に立って指導する、挨拶の強化週間を設定する。 ○無言掃除の強化週間に、各学年の学級委員が掃除の見回りをし、掃除巡回当番として報告をする。これによって、学級委員のリーダーとしての自覚を育てる。 ○学校のきまりの中で、名札やシャツ入れ等を守れない児童に対する取組について、効果的なものについて交流し、全校で同じ対応を行うことで徹底と習慣化を図る。
健やかな体の育成	心身の健康や、体力の向上を図る教育活動の推進	体力づくりの推進と基本的生活習慣の定着	○体力づくり・生活習慣3項目（外遊び・早寝早起き・朝食）の重点週間取組と月末評価	○児童と教師が行う体力づくり・生活習慣3項目（外遊び・早寝早起き・朝食）のアンケートの全ての項目で80%以上	100%	66%		66%	C	○外遊びについては、生活点検表において79%であった。 ○早寝早起きについては、保健だよりや、各学級の担任の呼びかけにより、定着している。 ○朝食については、93%の児童が毎日朝食を摂っていることが分かる。 ●外遊び・運動をしている児童の二極化がみられる。外遊びが習慣化されている児童や運動部に所属している児童へは継続した運動推進の声かけをしていき、外へ出る習慣がない児童へは、休憩時間に外へ出すて遊ぶという小さな取り組みからしていく。	3			○生活習慣については家庭での取り組みが主になつてくと思うが、学校と保護者の連携を密にし、早寝早起き等の生活習慣の定着を図りたい。また、バス通学や徒歩通学など、運動部には少ないため運動部に所属していない児童の運動の機会が少ないと思われる。外遊び等の積極的な声かけが望まれる。 ○すばらしい環境の生口島、高根島で生活している子どもたちは、恵まれています。しっかりと五感を働かせて、いろいろな体験学習を通して感性豊かな子どもたちに成長していただきたい。将来、生きていく糧につながると思ひます。 ○児童は遊びの中から大切なルールや思いやりを身に付ける。大切な活動なので、外遊びを教師と児童が共に大切に評価してやることが大切だと思ふ。	○重点体力課題を職員がより強く共通認識し、今後の取組を進める。 ○体育科授業の質的向上に向け、教員が情報交換ができる方策を考案、実施する。 ○校内に自然に体力作りを促せるような環境づくりをする。 ○児童自身が重点体力課題を意識し、意欲的に体力向上活動に取り組めるよう環境づくりをする。 ○児童・家庭へ早寝早起きの効果を繰り返し呼びかけ、生活習慣の確立を目指す。
信頼される学校づくり	安心・安全な学校づくりの推進	保護者の瀬戸田小教育に対する満足度の向上	○子供の姿や学校課題を明確にした学校・学年通信による情報発信と広報	○学校・学年通信、月1回以上配布	100%	85%		85%	B	○学校通信は月に1回は配布することができた。 ●学年通信の配布は100%に達していない。通信の発行状況の確認不足と、日常的な児童の学習の様子等の記録をすることが不十分であったことが原因である。	3			○学校に行き帰会の少ない保護者にとって学校通信・学年通信は学校の様子を知ることのできる重要なツールの一つと考える。引き続き魅力ある通信の発行が望まれる。 ○情報発信を、各区内回覧されていることは、学校の内外の活動の様子が理解でき、地域の話題になっています。 ○学校通信・学級通信は、保護者や地域の友達と結ぶ非常に大切な手段だと思ふ。続けてほしい。 ○各行事を通して児童の心は大きく育ち、成長している。児童にとっても成長する良い機会と考える。当然のことながら行事の精査も必要だが、経路することを得られるものが大きいと考える。 ○アンケートの結果を分析し、教育活動に活かされている様子が伺われます。 ●校歌を歌う声や、挨拶・返事・発表の際の声が小さい。精一杯声を出す習慣を身に付けさせる取組や、挨拶や返事の意識付けが不十分であったことが原因である。	○月初めの10日までに学年通信が発行できるように、日常的に児童の学習の様子を記録しておく。また、学年通信・学校通信等を職員室前に掲示することにより、通信の発行状況を確認するとともに、他学年の通信の内容を参考にすることができるようになる。
			○行事後の保護者アンケートの実施	○アンケート結果の肯定的評価90%以上	90%	96%		106%	A	○5月の運動会後のアンケートでは、95%の肯定的評価をいただいた。団体競技を主として、子供達の精一杯頑張る姿を見ていただいた結果であると考えている。 ○6月のふれあい参観日では、96%の肯定的評価をいただいた。 ●校歌を歌う声や、挨拶・返事・発表の際の声が小さい。精一杯声を出す習慣を身に付けさせる取組や、挨拶や返事の意識付けが不十分であったことが原因である。	3			○行事を通して子供達につけたい力を明確にし、取り組むことにより、児童に成就感や達成感をもたせる。 ○朝の会でミュージックタイムや早口言葉、音読等を行ったりと出す練習を継続して行い、声を出す習慣をつける。	

尾道市立瀬戸田小学校

【自己評価 評価】

A：100≦（目標達成）

B：80≦（ほぼ達成）＜100

C：60≦（もう少し）＜80

D：（できていない）＜60

【外部評価】

イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。

ハ：わからない。